



株式会社SUBARU

商品全体で環境に貢献
工場でもCO2排出削減し
自然との共生目指す



東京都・太田市

住所 本社:東京都渋谷区恵比寿1-20-8 エビスバルビル
群馬製作所:太田市スバル町1-1
TEL 03-6447-8000
URL <https://www.subaru.co.jp>
代表者 中村 知美
設立 1953年7月15日
資本金 1,537億9,500万円
従業員 16,961人 (連結会社 合計36,910人)
(2022年3月31日現在)



企業紹介

私たちSUBARUは、クルマや航空機といったモノや技術を生み出す会社にとどまらず、お客様の笑顔をつくる会社になることを目指しています。「安心と楽しさ」を提供価値とする個性的で魅力ある会社であるとともに、商品・サービスを通じてお客様に真摯に向き合い、お客様の良きパートナーでありたいと考えています。「お客様第一を基軸に『存在感と魅力ある企業』を目指す」という経営理念のもと、多様化する社会ニーズに貢献するとともに、企業としての社会的責任を果たしていきます。

経緯・背景

私たちは、企業としての社会的責任を果たすことで社会から信頼される企業となり、持続的な成長を目指すと同時に、愉しく持続可能な社会の実現に貢献していきます。2030年に向けた持続可能な未来を実現するための開発目標SDGsにおいて、事業の強みを活かして社会に貢献する領域と社会の要請に応える領域から構成されるSUBARUグループのCSR重点6領域について「ありたい姿」を明確にすることで各領域の取組を一層強化し、SDGsの達成に積極的に貢献していきます。

水力発電由来の電力購入や 高効率の空調機器導入 県有林の保全整備支援も

具体的な取組・成果

- 環境:CO2排出量削減の取組
 - ◇購入電力のカーボンニュートラル(本工場、大泉工場)
群馬製作所本工場では、2020年11月から「電源群馬水力プラン」に切り替え、全購入電力を水力発電由来の電力とし、2021年度は約25,000t-CO2の削減になりました。
また、2021年度の群馬製作所大泉工場の購入電力5,586MWhに対して非化石証書を活用することで、2,474t-CO2を削減しました。
 - ◇高効率空調機器の導入(矢島工場)
自動車の塗装工程では「温める」「冷やす」を繰り返す必要があり、大量のエネルギーを必要とします。そこで、群馬製作所矢島工場では、2018年よりヒートポンプを中心とした高効率の熱源システムに変更し、その結果、2021年度はCO2排出量を従来システム比で2,045t-CO2削減しました。

- ◇太陽光発電(本工場、大泉工場、矢島工場)
群馬製作所の3つの生産拠点では太陽光発電設備が稼働しており、2021年度は約3,057t-CO2のCO2排出量削減となりました。
また、矢島工場では、2022年6月から、立体駐車場(パネル容量:630kW)および完成検査棟(パネル容量:853kW)での太陽光発電設備が稼働しています。



矢島工場:立体駐車場の太陽光発電設備



大泉工場:太陽光発電設備

- 生物多様性
 - ◇群馬県立森林公園「SUBARUふれあいの森 赤城」
2018年4月、SUBARUは自動車生産工場がある群馬県の県立森林公園のネーミングライツ(命名権)を取得しました。2023年までの5年間で「SUBARUふれあいの森 赤城」と称し、県有林の保全整備支援を行っています。

当社にとってのSDGsビジョン

SUBARUグループは、持続的な成長を目指すとともに、愉しく持続可能な社会の実現に貢献していきます。SDGsにおいては、SUBARUグループのCSR重点6領域について「2025年のありたい姿」を明確にすることで、SDGsの達成に積極的に貢献していきます。

今後の展望と求めるパートナー像

私たちは地域の方々とコミュニケーションを図り、その声を経営や取組に反映し、各地域の発展や信頼関係づくりに努めています。関連する皆様と一つの輪になり「地域の発展と住み良い街づくり」を目指し、時代のニーズに応えるため「環境活動」、「交通安全活動」等にも注力し、より地域に密着した活動を展開していきます。